

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>（内水氾濫について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内水氾濫の危険性が非常に高い。土地の低いところは、避難自体が難しい。がけ崩れの心配もある。現場を見て、災害を防ぐための対応を考えてほしい。 ・小学校の裏門に向かって登校する子どもが多いが、すぐ浸水してしまう。消防倉庫の前も浸水するため、消防車を動かさないといけない。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壺川校区は、特に水害のリスクが高いエリアと認識している。 ・具体的な浸水ポイントを現地確認し、対策がすぐできるかできないのか、また将来的にできるのかなど、今後対策を講じていきたい。 	<p>政策局 都市建設局</p>	<p>危機管理防災総室 中央区土木センター 維持課</p>
2	<p>（まちなかの防災について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城東校区は、まちなかを抱え、事業所や来街者、外国人などが多い。まちなかの防災を住民や地域組織だけで考えることは無理がある。 ・まちなか最大の事業所である市役所の役割を、条例の中に盛り込んでほしい。 <p>（防災教育と防災士の活用について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員も子どもも熊本地震を経験した人が少なくなっている。地域が防災教育にかかわっていく必要がある。特に地域の防災士の活用を。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城東校区には、商店街や民間オフィスと市役所とがどうコラボレーションしていくかに課題があると思う。 ・地域住民だけ守れば良いということではない。帰宅困難者のこともあるので、サクラマチで11,000人が3日間過ごせるだけの備蓄をしている。商店などにも協力いただき、急場をしのごこととしている。 ・校区防災連絡会を作って終わりではなく、日ごろから、地域のつながりをつくっていくことが大事。 ・防災教育については、防災士が地域の防災教育に関わっていくのは重要。 	<p>政策局 中央区役所 教育委員会</p>	<p>危機管理防災総室 総務企画課 健康教育課</p>
3	<p>（地域のつながりづくりについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいマンションと古くからの一軒家が混在し、地域のつながりづくりや地域活動の担い手不足が課題。 ・避難所運営委員会も発足したが、これを今後どう動かしていくか苦慮しており、まだまだ盛り上がりにかけていると感じる。 ・備蓄品のアドバイス等もいただきたい。 <p>（避難行動要支援者について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者は、本人の申し出で申請する形となっており、もう少しやり方を変えられないかと思っている。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながり、人材をどうするか、これは各地域共通の問題 ・各校区の良い取組事例などを共有することが大事。 ・備蓄などの自助は大変重要であり、啓発をさらに進めて行く。 ・避難行動要支援者制度についても課題が多いため、今後制度の整理を進めて行く。 <p>【健康福祉政策課 補足説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご意見の内容は、「災害時要援護者避難支援制度登録者」または「要援護者登録者名簿」に関するものと推測される。 ・一定の要件に該当する場合に登載される「避難行動要支援者名簿」の取扱いも含め、関係部局とともに制度面での整理について協議していく。 	<p>政策局 健康福祉局</p>	<p>危機管理防災総室 健康福祉政策課</p>

No.	ご意見	回答	局	担当課
4	<p>（避難所のキャパシティについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨今のコロナ禍において、校区の人口13,000人に対し、避難所となる小学校体育館で2メートル四方の間隔をとると、50組くらいしか入らない。 ・最近テレビで早期避難を呼びかけており、これは大変良いことだが、避難者は今後増えてくると体育館に入りきれない。車中泊の問題もあったが、どこにどれだけ避難できるのか明確にしておく必要があるのでは。また、教室で避難者を受け入れる場合、生徒の荷物等があるがどうするのか。 <p>（災害時要援護者避難支援制度について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要援護者について、名簿は自治会長がもらっているが、校区防災連絡会や避難所運営委員会は名簿をもらえない。自治会や消防団、民生委員で全てやってほしいということなのか。 <p>（防災士養成講座について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は新型コロナで中止となったが、大変良い取組だと思うので、今年度実施する場合は早めに地域にアナウンスしてほしい。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震時のことを考えると、避難所となる体育館にすべての避難者を受け入れるのは難しいと考える。 ・想定している受入数よりもコロナ対応でさらに受け入れが少数とならざるを得ないため、もう一度皆さんと見直していったり共有する必要がある。 ・また、在宅避難を選択される方も多く、災害種別によっても避難行動が変わるため、避難所のニーズやキャパシティも変わってくることを想定しておく必要がある。 ・教室内の荷物や備品等をどうするかについてもしっかり検討していく。 ・要援護者の名簿の共有については、条例の検討委員会の中でも議論いただいているため、条例の検討状況によっても変わってくるものと考えている。 <p>【健康福祉政策課 補足説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者避難支援制度に基づく要援護者登録者名簿については、要援護者の避難支援について検討・協議する関係者（名簿所持者、避難支援者、町内自治会役員や班員、校区防災連絡会等）に共有し、校区や町内での取組として、要援護者の支援に名簿の活用をお願いしているところ。 ・災害時にのみ覚書を締結した団体に提供している「避難行動要支援者名簿」の取扱いも含め、関係部局とともに制度の見直しを検討していく。 	<p>政策局 健康福祉局 中央区役所</p>	<p>危機管理防災総室 健康福祉政策課 総務企画課</p>
5	<p>（避難者の想定について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では各校区の避難想定数と避難所のキャパシティをどのように想定しているのか。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震時の経験から最大11万人の避難者を想定している。 	<p>政策局</p>	<p>危機管理防災総室</p>
6	<p>（避難所の避難計画について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所が校区に7カ所あり、各避難所毎の計画を作るように言われていたため、まずは黒髪小学校の計画を作成し、それを他の避難所にも水平展開していく形で考えていたが、新型コロナによりできていない。 <p>（地域と事業者のつながりづくりについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの登校の見守りをきっかけに、校区内の事業者にも声掛けした結果、地域と事業者のつながりができた。今後はそれを防災にもつなげていけたらと思う。 <p>（避難行動要支援者について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区社協と民生委員が協力し、できるところから民生委員と自治会長が要支援者の個別避難計画を作成していくこととしている。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に7カ所も避難所があつて全て各々の計画を作るのは大変であろうと思う。 ・事業者とのつながりについては、地域としてもなかなか接点を持っていないと思うので、行政が入って事業者と協力する等の対応を考えていきたい。 	<p>政策局 健康福祉局 中央区役所 教育委員会</p>	<p>危機管理防災総室 健康福祉政策課 総務企画課 健康教育課</p>

No.	ご意見	回答	局	担当課
7	<p>（避難所における中学生の関わりについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震時に市内の中学校の教員だったが、中学生が避難所運営を積極的に手伝ってくれた。市内の多くの学校でそうだったようだ。 ・突然起こった地震で、子ども達があれだけの対応ができたことや、家財道具の片付けなど多くの地域住民が支援をしていた。 ・このようなことから、いざという時の助け合いの精神は育まれていると思う。 <p>（防災教育について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教員不足があり、先生たちにこれ以上負担を求めるのは厳しい。防災士が勤めるプログラムを実施すればとても時間がかかるため、1時間くらいでも自分たちで考えるようなプログラムにすると効果が高いのではないか。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生の災害時の関わりは非常に重要で、東日本大震災の際も避難所等で大きな力となったと聞いている。 ・防災教育は防災士による専門的な視点による助言や気付きも大事だが、自分で何ができるかをまず考えさせることも大切。 	<p>政策局 教育委員会</p>	<p>危機管理防災総室 健康教育課</p>
8	<p>（助成金について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区防災連絡会の助成金として6万円を支給されていたが、防災の備品などに使えるようにしてほしい。 <p>（防災井戸について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災用の井戸を学校につくることを検討してほしい。地震の時は、ポンプ車がきたが、熊本市は特に水にめぐまれた都市のため、検討いただきたい。 <p>（防災士の資格取得者について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度防災士の資格を取得すると更新の必要はないが、1年も経つと内容を忘れる。再度勉強し身に付くように更新制度があると良い。 <p>（土地の買収について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウクライナの情勢を見ていて、江津湖の土地の買収、安全保障の問題、土地の買収についてどう思うか。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災井戸は、民間の協定を結んでかなり使えるようになっている。また、学校においては、普段は水が循環し災害時に貯水する給水管の整備を進めているので、まずはそちらで対応したい。 ・井戸を掘るのは簡単ではないが、さまざま検討していく必要はあると思う。 ・防災士のフォローアップ研修を今年度から実施予定。 ・外国の方の土地買収は、法律に基づいての売買だと対応は難しい。マンションも同様。 <p>【危機管理防災総室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区防災連絡会の設立時に運営に係る助成として6万円を支給し、活動内容を報告書で提出いただいているが、避難所運営キットなど資機材を別途支給しているため、そちらを活用いただきたい。 	<p>政策局 中央区役所</p>	<p>危機管理防災総室 総務企画課</p>

No.	ご意見	回答	局	担当課
9	<p>（避難所について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一高校は一時避難所となっている。指定を受けなくてよいから、コミュニティセンターを開けることを検討してほしい。 ・避難所で2メートル間隔をとるとほとんど入らない。 <p>（立田山断層について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立田山断層の詳しい検証をしてほしい。120年前の地震は忘れられている。専門家を通じて、耐震の家屋にするなど、心構えとしては、あと何年後にどれくらいの地震があるかを示してほしい。 <p>（町並みの保存と賑わいづくりについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新町、古町は公費解体で4割近い町屋がなくなった。まだ100件ほど町家が残っているので、今後ぜひ残してほしい。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立の高校等は、当時はなかなか調整がうまくいかなかった。 ・地域のコミュニティセンターも活用しながら、スペースの確保や避難の在り方についても検討していく。地域からもアイデアや提案を出していただきたい。 ・立田山断層は調査と評価をすでに実施している。今後、公表し共有を図っていきたい。 ・公費解体は喜ばれた一方で、古い町並みや町屋が4割なくなったのは損失と思っている。歴史まちづくりの取組で、古い建物をリノベーションし魅力的に生まれ変わったことで賑わいにつながっているとところもあり、今後も災害に強いまちづくりと魅力ある町並みを両立していきたい。 	<p>政策局 都市建設局</p>	<p>危機管理防災総室 都市デザイン課</p>